

6月県議会（6/21～7/6）が開会中です。

6月26日の**両角友成**県議の一般質問と答弁を紹介します。



原発ゼロへ 再稼動に反対表明を 自然エネルギー 具体的とりくみを求める

両角県議は、福井県・大飯原発の再稼動について、「県民の命を守る立場の知事として、反対すべき」と求めました。**知事**は、電力需給は危機的状況にあり、政府による安全判断・特別対策などがなされていることをあげ「大飯の再稼動は暫定的・限定的なこと」として反対表明は行いませんでした。

両角県議は、自然エネルギーの活用について、県がイニシアチブをとり、もっと具体的にモデルを示してほしいという自治体の声に応えるよう、提案・質問しました。以下、各部長答弁より。

環境部 太陽光、小水力等のエネルギー種別ごとの部会を設置し地域活性化につながる先進的かつ具体的な事業化を検討中。

商工労働部 自然エネルギーの利用拡大とものづくり産業が効果的に結びつくよう、新たな支援策を検討したい。

農政部 モデルとして1か所の小水力発電とかんがい用貯水槽の面を活用した2か所の太陽光発電に着手した。課題を検証し、積極的に取り組みたい。

林務部 県内の温泉施設等の半数以上が木質バイオマス利用に前向きであり、普及拡大に努めると同時に、赤松利用についても関係者と連携して進めたい。

子ども・障がい者の医療費・窓口無料化 当事者を交えた検討の場を

両角県議は、厳しい財政運営のなか、県内市町村は独自に子どもの医療費補助を行っており、県の制度として対象年齢を引き上げ、また、自己負担金500円を見直すよう求めました。

福祉医療制度については、県内のさまざまな団体が窓口無料化を求める署名に取り組み、43000筆を県に提出しています。**両角県議**は、子を持つ親や障がい者など当事者も参加した、「制度を検討する場」を設けるべきと提案。**健康福祉部長**は、「県の中期総合計画策定の中で子ども・子育ては主要なテーマであり、子育て環境全体についての議論を深める必要がある。質問のあった方々も含めて、広く関係者の意見を聞くことが必要」と答えました。

質問をおえて

両角友成

冒頭、「我が会派、今定例会も一番くじを引き当てました」と、マスコミでも注目された幸運のくじ当てに敬意を表し、質問を始めました。

今回は「いのち」をテーマに、①原発再稼動反対、②子どもさんや障がい者の皆さんの病院窓口無料化、③県の防災計画に県民の声を反映させるべきと、3点にわたり当局に迫りました。大変重要な問題ですので、あきらめずに県民の皆さんの立場でがんばり続けます。

